

# 読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

たまのこうなんこう たまのし せいと ちいせいのこうれいしゃにゲームの遊び方を教えています。記事を読み、質問に答えましょう。

Q1

光南高の生徒は「健康ゲーム指導士」として、地域の高齢者にゲームの遊び方を教えています。指導士はゲームを通じて何をすることを目的としている資格ですか。第1段落の言葉を使って答えましょう。

Q2

健康ゲーム指導士の活動は、生徒にとっても良い効果があります。生徒は自分たちのどんな力を向上させようとしていますか。

Q3

生徒は9月にゲームを教えるイベントを開きました。プレーしていない高齢者も楽しめるように、どんな工夫をしましたか。第4段落のかぎっこ内から書き出しましょう。

## 健康ゲーム指導士始動

光南高情報科3年

### 高齢者に遊び方教え交流

テレビゲームを通じて健康寿命を延ばし、地域に交流の場をつくる「健康ゲーム指導士」の資格を6月に取得した光南高情報科の3年生が始動した。地域の高齢者にゲームの遊び方を教えることなどを通して、生徒自らのコミュニケーション力向上にも取り組んでいる。

光南高で7月にオープンした地域開放型のICT(情報通信技術)教室「ぶろぐ☆ラボこらなん」を会場に今年21日、市内の高齢者7



「健康ゲーム指導士」の資格を6月に取得している。

(矢吹喜一郎)

【写真上】「ぶろぐ☆ラボこらなん」で地域の高齢者にゲームをレクチャーする光南高情報科の3年生

【同下】深山公園のセンターハウスで行われた健康ゲームの体験会

人に対して生徒16人が初めて「指導」。音楽に合わせて太鼓をたたくりリズムゲーム「太鼓の達人」と、家庭用ゲーム機・プレイステーション(PS)のソフト「グランツーリズム」に取り組んだ。

「太鼓の達人」では、生徒が高齢者の横で「いいリズムです」「連打してください」などと声を掛けながら楽しく盛り上げていた。ゲームをプレーしていない高齢者も参加できるようにリズムに合わせて肩や太ももをたたく工夫も見られた。

初めて挑戦したという宮田泰子さん(77)は「生徒さんが優しく教えてくれたので、楽しくできて元気も出ました」と笑顔。

太鼓の達人をレクチャーした高藤峻矢さん(18)は「玉中出身」は「全員が参加できるように、ゲームに合わせて体を動かしてもらった。資格取得の講座で学んだ知識を実践できていい経験になった」と話していた。

23日には、深山公園のセンターハウスでも健康ゲームの体験会を行い、併せてクイズスタンプラリーのイベントも実施した。同高情報科では、2年生も「健康ゲーム指導士」の資格を6月に取得している。

9月28日付山陽新聞、玉野圏版

過去の問題は  
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。